

九月の法座・行事

九日・同朋の会例会(座談会)

大阪教区第七組

教應寺住職

建部 智宏 師

大阪教区第七組

長教寺住職

稲垣 洋信 師

(午後二時)

十二日・闍如上人御逮夜・常永代経

(午後二時)

十三日・闍如上人御命日

(午前八時)

二十四日・正信偈書写の会

(午前十時)

・秋季彼岸会並總永代経法要

兼墓地納骨(物故者)追弔法要

大阪教区第十五組

西稱寺住職

宮部 渡 師

(午後一時半)

二十七日・宗祖聖人御逮夜

(午後二時)

二十八日・宗祖聖人御命日

(午後八時)

◆報恩講準備のお願い

九月三十日(日)午後一時より報恩講前の仏具のおみがき・境内・仏間・和室の清掃、のぼり旗の設置等の作業を行います。尚、今年度のおみがきには若林仏具店様にお越しいただき、おみがき講習会を予定しております。ご門徒の皆様のご参加をお願い申し上げます。



今月の天満別院伝導掲示板

希望を持たずして

生きることとは

死ぬことに等しい

(ドフトエフスキー)

編集後記

先日、初めて広島に行ってきました。実際に原爆ドームを目の当たりにし、瓦礫が生々しく散らばっていたことに何とも言えない気持ちを抱きました。教科書の写真だけでは気づかなかったことも実際に訪れたから分かるということに気づかされました。何事も百聞は一見にしかず、そう感じさせていただきました。堀河

霊園・墓石



太田石材店

本社 〒536-0001
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号
〒530-0042
大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

六字城

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役

宣心院 大谷 暢文

教主世尊にまふさしむ

往昔恒河沙劫に

佛世にいでたまへりき

無量光とまふしけり

(勢至菩薩は教主であるお釈迦さまにおっしゃいました。「恒河沙劫という大昔に、仏がこの世にお出ましになられました。そのお名前は無量光とおっしゃいました」と。)

この『勢至讃』の二首目は、次の一首とつながって一つの意味をなします。が、あえて一首ずつ見ていきます。ここでは勢至菩薩が「恒河沙劫という大昔に、仏がこの世にお出ましになら

発行 真宗大谷派(東本願寺) 天満別院

大阪市北区東天満一-八-二六

電話 六三五-一三三三五
代表者 輪番 武宮 信勝

ました。そのお名前は、無量光とおっしゃいました」と述べられているところを、親鸞聖人が「和讃になさっています。これは『首楞嚴経』の「われ憶うに、往昔恒河沙劫に佛ましまして世に出づ、無量光と名づく。」に依っています。『首楞嚴経』のこの箇所では、無量光がこの世にお出ましになられてから一劫ごとに次の仏が一仏ずつお出ましになられ、十二劫かかって十二仏がお出ましになったことが示されています。そして最後の仏が超日月光です。勢至菩薩は、その超日月光にお会いになったことを述べています。今ここに十二仏を挙げますと、無量光佛・無辺光佛・無礙光佛・無対光佛・炎王光佛・清浄光佛・歓喜光佛・智慧光佛・不断光佛・難思光佛・無称光佛、そして超日月光佛です。こうして挙げてみると、『正信偈』の一節と同じだとお気づきになることでしょう。『正信偈』の「普放無量無辺光 無礙無対光炎王 清浄歓喜智慧光

不断難思無称光 超日月光照塵刹 一切群生蒙光照」の部分です。もつとも『正信偈』は『仏説無量寿経』に依っていますので、『首楞嚴経』の十二仏とは違っています。というのも『首楞嚴経』の十二仏は、一劫ずつという期間限定の仏となっているからです。しかし親鸞聖人は、『首楞嚴経』の「恒河沙劫という大昔に、仏がこの世にお出ましになられました。そのお名前は無量光とおっしゃいました」というところに注目なさいました。勢至菩薩が、無量光佛という仏のお名前を明らかにされたことが非常に重要となっています。もちろん無量光佛は、阿弥陀さまのお名前の一つであることは言うまでもありません。そして、勢至菩薩は、その阿弥陀さまの脇侍として観音菩薩とともにいらっしやる方です。この脇侍である勢至菩薩が、阿弥陀さまのお名前を明らかにしてくださることによって、娑婆世界にいるお釈迦さま、そして私たちが初めてそのお名前を知ることができたのです。

◆天満別院報恩講のご案内

左記の通り天満別院報恩講を厳修いたします。

十月三日(水)

・初速夜
御伝鈔拝読
(午後一時半)

法話一席

十月四日(木)

・日中
(午前九時半)

婦人部報恩講

・結願速夜
(午後一時半)

婦敬式執行

法話一席

十月五日(金)

・報徳会
(午前十時)

・結願日中
(午後一時半)

法話一席

報恩講法話

大阪教区第十二組清澤寺前住職

澤田 秀丸 師

◆別院報恩講御参修 門首後継者をお迎えして

大谷暢裕氏の御紹介



おおたに ちようゆう 大谷 暢裕氏
1951年8月17日
(67歳)

院号法名 能慈院釋修明

役 職 門首後継者・鍵役・開教司教

※鍵役とは：真宗本廟の両堂に奉仕し、儀式において門首を補佐する役職

※開教司教とは：海外開教区(ブラジル、ロシア)

職(門首)を補佐する役職

略歴

一九五二年 父親・大谷暢慶氏(能明院)の

南米開教区開教使発令に伴い渡伯

一九七六年 サンパウロ大学

物理学部学士課程卒業 専攻：物理学

一九七九年 航空技術研究所勤務

一九八五年 サンパウロ大学にて

物理学博士号取得

二〇一一年十一月二十二日 鍵役・開教司教就任

二〇一四年四月三十日 継承審議会において、門首後継者に選定

国籍：ブラジル

言語：日本語・英語・ポルトガル語

報告

暁天講座・孟蘭盆会法要

去る八月六日(月)、七日(火)の午前六時三十分より暁天講座を開講いたしました。両日ともに大阪教区第六組願光寺住職 茨田通俊師により『愚かな身を生きる』の講題のもとに私達は業縁存在として生きている中で自分の愚かさをなかなか認めようとしない。自己中心的な我が身をいいあててくださるお方、アミダさまから、いつでも願われている存在として今を生きているというお話をいただきました。

また十三日(月)は、午後一時半より孟蘭盆会法要が勤修され、法要後には大阪教区第七組光明寺住職 山内雅教師の法話があり、お盆のお花やお供えについて等のお話をいただきました。当日は酷暑の中、皆様熱心に聴聞されておられました。



暁天講座 茨田 通俊 師



孟蘭盆会法要 山内 雅教 師

◆京都の親鸞さまに

会いにいきたいと思います！

真宗本廟では来る十一月二十一日(水)から二十八日(水)にかけて「御正忌報恩講」が厳修されます。

天満別院門徒会といたしましては、左記の日程で「御正忌報恩講」へ中型バスにて**団体参拝**を計画しております。詳細は来月号の六字城でお知らせいたします。皆様お誘い合わせのうえ、是非ご参加くださいますようご案内いたします。

日程 二〇一八年十一月二十三日(金)

東本願寺 境内にて



今年の団体参拝

尚、今年度は輪番が十一月二十七日(火)の日中に全国専任輪番会の一員として出仕されます。御同伴の方は申し出てください。

輪番雑感

「老いの不安」から生ぬく力

輪番 武宮 信勝

お盆過ぎの先日、枚方の介護付有料老人ホームに在住しておられるAさんが来院された。お年は84歳で笑顔の素敵な女性。亡き御主人に想いをよせ、息子(東京在住)さんの自家用車でお墓参りに来られ、別院の本堂に参拝された。足腰がかなわなくなる一方、転んで右手を骨折。杖をつきつつ不自由なお体を抱えているの身、おそらくは必死の参詣であったと思うとき、目頭が熱くなった。

いまや3人に一人という、未曾有の高齢化社会。小生もその一人であるが、老いるという事は、いままで一人でできていたことが、加齢と伴にかなわなくなるということでありましょう。Aさんは、一人暮らしへの不安を抱き、遠く離れている息子さんの勧めもあつてか、住み慣れた我が家を離れ、今の生活が始まったと聞きました。同じような境遇の仲間と一緒に、食事・レクを通して会話ができる喜びを、ひしひしと語ってお帰りになりました。

外用での交通機関は、地下鉄を利用してはいる私ですが、当たり前のようになっている光景がある。それは、電車に乗り

降りする時も、電車の中でも壮年以下の男女は、スマホと対面しているか、イヤホンを耳にしている姿。じつと椅子に腰かけて沈黙しているのは我々老人ばかり。ほとんど電車の中では人の会話は無い。若い外国人は平気でシルバースーツを陣取っている。誰一人注意をかけない。目の前に老人が立っておつても知らんぷり。

敬老じゃない軽老社会は今始まったことではないにしても、人は誰しも一日一日老いを生き続けていることを忘れていくことは悲しいことである。

老いて生きる身のむなしさの只中であつて、ただ一つ「本願力に会いぬればむなしくすぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」

とうたわれた親鸞聖人は、「不安から生じる苦しみ悲しみの身の事実に出会い、心底のがれ難き身を問いつけなさい。そこから見えてなかつたことが見え、聞かえてなかつたことが聴こえてきます。あなたは決して一人で生きているのではありません。阿弥陀如来が私となつて、私を救ってくださいます。決してあなたを見捨てはしません」と。如来に出遇えて、どん底から立ち上がった慶びの歌となつて響いてきます。人生に何一つむなしなことはないのですね。